

東北大学

取組名称:環境に優しい鉄鋼材料創出教育プログラム

【取組概要】

鉄鋼企業への学生派遣を、環境・エネルギー・資源に視点をおいた「環境にやさしい鉄鋼材料:グリーンスチール」を実現していく実践の場とし、自らの研究課題を現実と比較して、社会、環境への寄与や公共性の観点から総合的に判断し、社会に有益な新たな技術体系や領域、あるいは価値観を提案・創出していく能力を育成するための、長期インターンシップを含んだ教育プログラムの開発を行った。



【成果等】

プログラム期間(平成17年度-21年度)におけるインターンシップ派遣者数は5年間で計56名であり、そのうち2週間以上の長期間のインターンシップ派遣者数は31名であった。また、5年間で43名の講師(企業:41名、学内:2名)によるグリーンスチールセミナーを行った。企業でのインターンシップにより、大学で行っている研究課題が専門領域の学術的な課題にとどまるのではなく、現実の問題とつながっている重要な意味をもっていることの理解が進んだ。また、学生が企業で得た体験が個々の学生に止まるのではなく、事後教育として行っているグリーンスチールセミナーでの議論などにおいて体験を共通の基盤として議論・検討を行うことにより、社会のニーズに関心を持つ技術者の育成につながった。5年間の取組によって、優れた長期インターンシップ・プログラムの開発を行うことができた。

**産学連携による実践型人材育成事業 ―長期インターンシップ・プログラム開発―
最終評価結果**

大 学 名	東北大学
教育プロジェクト名称	環境に優しい鉄鋼材料創出教育プログラム
事業責任者	東北大学大学院工学研究科 教授 石田清仁

事業概要

鉄鋼企業への学生派遣を、環境・エネルギー・資源に視点をおいた「環境にやさしい鉄鋼材料:グリーンスチール」を実現していく実践の場とし、自らの研究課題を現実と比較して、社会、環境への寄与や公共性の観点から総合的に判断し、社会に有益な新たな技術体系や領域、あるいは価値観を提案・創出していく能力を育成するための、長期インターンシップを含んだ教育プログラムの開発を行った。



最終評価結果

(総合評価) A: 所期の計画と同等の取組が行われた

コメント

≪優れた点≫

1. 材料科学で世界トップレベルの当学の特長を活かし、グリーン・スチールという公共財をテーマとし、その実現に向かって多数の企業と連携して実施するインターンシップは有効であったと考える。先端鉄鋼教育・研究センターを拠点とした、継続した取組を期待する。

≪改善を要する点≫

1. グリーン・スチールの実現を目指した研究開発においては、複数の要素技術が当然関係してくる。現状のままではインターンシップ参加者数には自ずから限界があるので、今後は先端鉄鋼教育・研究センターが直接担当する領域だけではなく、インターンシップ参加の専門領域の拡大が求められる。
2. インターンシップの成果となる育成人材像について、リーディング・ユニバーシティである当学にふさわしい形の明示が期待される。